

# Parlando

ぱるらんど 「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

268



## Contents

---

- 怖い音源…福田隆●1
- Parlando Interview 作曲家の魂を伝えられれば… …永井宏先生 きき手・市川利次…●2
- 図書館委員の先生からのおすすめ ～このCDあの図書～ ④…●6  
朗読CD『ゲーテを演じる名優たち』-Große Goethe Interpreten/末松淑美  
シェイクスピア『夏の夜の夢』/友利修
- 身近な校歌…撰正弘●7
- 資料の館 ⑦ レポート、卒論、文章の書き方の本…森岡倫子●7
- 図書館員のノートから 参考図書のご紹介 ⑧  
RIPM (リプム) ～19世紀の音楽新聞・雑誌記事検索に朗報! ～…市川啓子●10
- 図書館と著作権と資料の複写 (その2) …●11
- 図書館のう・ご・き…松浦淳子●12
- 館長室の窓から ⑭ 晩鐘…佐藤真一●13
- すぐに役立つOPAC検索 ① 音楽教科書・指導用の資料の探し方…●13
- CD/楽譜/CD…ステファニー・栄実・ウィットマー/小川太一/房野雄輝●14
- Information…●16



# 怖い音源

福田 隆

皆さんは、SPレコードを聴いた事はありませんか。

今では、CDすら斜陽化し、ネット配信の音楽の方が主流のようですが、私が大学生の頃は、まだLPレコードが全盛でした。埃が付かないように気を使って保存したレコードをプレーヤーに乗せて、緊張と期待を持って針を落とすと、ある意味儀式的な行為から、当時はオーディオが趣味という概念が幅広い年齢層にあり、秋葉原はそういうマニア達のメッカでもありました（今では秋葉原も随分、変わってしまったが…）。

大学に入って間もない時に受けた授業で、「君達は大学に入れたお祝いに、グラランドピアノを買ってもらおう位なら、同じ金額のオーディオを買ってもらいなさい」と言われた先生の言葉が印象的で、その時は意味が分からなかったのですが、大学卒業後その事を実感するショックingtonな出来事がありました。

それは、関西のバイオリン製作者の方からSPレコードを聞かされた事でした。曲はクライスターの自作自演の《愛の喜び》《愛の悲しみ》

などでしたが、シャーシャーという雑音の中から、まるでそこにクライスターが立ってバイオリンを弾いているかのようなリアルな音が聞こえて来た事に、ぞつとするような鮮烈な印象を持ったのを、今でも鮮明に思い出します。逆に、同じ音源をLPレコードで持っていたので、自宅に帰り聴き返してみた時の、ツルリとした、何とも味気ない音の印象に失望した事も、マイナスのイメージとして記憶に残っています

今では、ユーチューブに代表されるように、メディア配信の音楽や動画が楽々と手に入りませんが、そこでは私がSPで経験したような感動は得られないような気がします。LPレコードを悪く書いたように思われたかも知れませんが、普通のCDプレーヤーやMP3プレーヤーで聴く音楽よりは、まだまだなめらかで温かみのある音楽が聴けると思います。

皆さんもたまには図書館のLPレコードが聴けるコーナーで、心静かに、出来れば作曲家の自筆譜を注意深く読みながら、音楽に耳を傾けて見ると新しい発見があるかも知れませんよ…。

● ぶくだたかし 本学教授(打楽器)

# 作曲家の 魂を 伝えられれば…



永井 宏先生

の石渡日出夫先生に習っていました。先生からは、演奏技術よりは、音楽を感じることを中心に教えていただきました。

— 手や指に悪い遊びは断念しなきゃいけない wasn't it? —

永井 それを断念しないから、母親に時々バーンと。外で走り回っていました。高校の時、野球ですごくきついライナーが来たのを捕り損なって脱臼したんです。その時もう、自分でやめようと思いました。

— 普通校でしょうか？ —

永井 ええ。幼稚園からずっとキリスト教系の学校です。音楽の先生から聖歌隊に誘われ、パレストリーナなんかを歌っていました。特に、《メサイア》は、クリスマス礼拝などでよく歌うので、ほぼ全曲に近く覚ええました。

— すごくいですね。パートは？ —

永井 バスパートです。高校になると、時間が足りなくなつて練習に行けなくなりましたが、本番近くなるとエキストラで呼ばれ、参加していました。音楽の授業では、よく賛美歌を四声体で歌っていました。時折先生は、「この賛美歌は《フィンランディア》と同じものから来てるんだよ」とか教えてくださいました。

— 素晴らしい先生ですね。

— 音楽との出会いは？ —

永井 始めたのが何歳か記憶にはないんです。父も国立のピアノ科でしたから、気がついたら弾いていました。小学校3年の時にグラインドピアノが初めて来て…。

— 大喜びされた？ —

永井 そうでもないのです。子供の頃は弾かされていたので…。音楽そのものとか、弾くこと自体嫌いではなかったと思います。ただ、何か母親に練習させられていた感じがします。母は以前、音

外で走り回っていました

— ご出身はどちらでしょうか？ —

永井 家は横浜の丘の上です。学校も全部丘の上で、丘じゃないところは、ここが初めてです。

が自然に育つていくとかは？

永井 子供たちが弾いている色々な曲を耳で覚えて適当に弾いていました。《バイエル》も弾いたし、幼稚園の学芸会で《ブルグミュラー》をのんびり弾きました。小学校3年の時からピアノを作曲家

楽の教員をやっていて、家でも子供たちにピアノを教えていました。歌が好きで、特に《ブラームスの子守歌》が大好き！とよく言っていました。

— レッスンを聴いているうちに耳

永井 ええ、本当に！先生が、関西の学校に赴任される時、「宗教音楽研究会」の伴奏の仕事を僕に託されました。指揮者は遠山信二先生でしたが、演奏だけでなく、年に2冊位中身の濃い印刷物を出していました。当時、バッハの《マタイ受難曲》の演奏回数が一番多い素晴らしい合唱団でした。

### 指揮もピアノも

—指揮はいつ頃から？

永井 大学2年生の時からです。当時は自主的に色々なことをやるのが盛んで、希望すれば学内演奏会で演奏できたのです。田中淑恵先生、武田忠善先生、山本英助先生：が同期で活躍されていました。そこで、バッハの《カンタータ》をやってみたくて…。それが指揮をした最初です。それを見た、まゐるめる座の部長が、「芸術祭で指揮をしろ」と言ってくくださったので、創作オペラの指揮もして。

—創作オペラの魅力は？

永井 色々な人が関わって、ごつた煮みたいなかで作っていく面白さがあり、新しい譜面から、様々なことを読み取り実現していくというのが実に楽しかった！オペラを見た誰かが「こつちで振れ」と。そういう連鎖反応で色々なところ

で指揮をしました。

—指揮をすると初見や譜読みが速くなるのでは？

永井 音を感じるのには速くなるけど、ピアノの場合、譜面が読め頭の中で音が鳴っても、手が動かなければしょうがないわけで…。

—ピアノと指揮の両方の準備！大変ではありませんか？

永井 とにかくピアノの前で練習しなきゃいけないから、その時間は絶対に必要です。で、指揮の為の譜読みは、ほとんど電車の中で。元々フーガみたいなものが好きで、楽譜だけ見て、音のないところで、音楽を想像しているだけでジワツときちやうのような時もあるのです。

—どんな感覚でしょうか？

永井 音と音の組み合わせで進んでいく様が、何かジワツと…。そうなる。ピアノを弾いても、自分で弾いている感じが薄れ、一步離れてというか、何か弾かされているような状態になる時があるので。体に譜がずつと入って弾かされているというように、そういう瞬間というのがとても好きです。

—バッハ以外にはどんな作曲家や音楽がお好きですか？

永井 その時自分が扱っている曲の作曲家はみんな好きです（大笑い）。ワサワサ心を騒がせる音楽も

好きだし、ロマンティックなおいしいメロディも好きだし、…それから、若い時はショパンが好きで、ある時期はリストが好きでした。でもブラームスだけはずっと好きで、未だに棒を振り続けているのは、そこにも理由があつて、「ブラームスのオーケストラ作品！一生やりたい！」と思つても、ピアノストというだけでは絶対オーケストラ作品は演奏できない。指揮をしていけば時々チャンスがあるわけです。

—ソロで卒業演奏会にも選ばれていますか？

永井 卒業で自分も弾いて、4、5人伴奏したので、それは大変でした。知らない譜面を弾くということが本当に楽しかったんだろ。うな、と思います。伴奏は、声楽や器楽、色々やりました。それなりに徹夜して譜読みしたりしました。

### 未だにドキドキしちゃう

—大学・大学院の先生はお父様と同じ先生と伺っていますが？

永井 属澄江先生です。高校から習っていました。指をどうとか、手首をどうとかはあまりおつしやいませんが、とても基本に厳しい先生でした。フィーリングでギターと弾くと、もうダメ。先生のお宅

に何う時など、極度の緊張で、未だに成城学園の駅を降りるとドキドキしちゃう（大笑い）。

—ピアノを弾く時は、自分できっちり楽譜から…

永井 学ぶしかないです。レコーどは、図書館にはありましたが、その時弾いている曲はあまり聴かなかつたです。聴かないで楽譜から自分で組み立てたほうが理想の演奏に…（できるかどうかは別として）。

—学生に勧められますか？

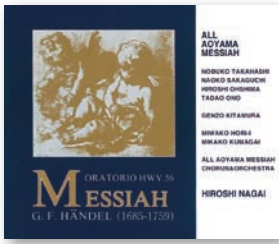
永井 うーん、それができれば一番良いと思うのです。膨大な時間をかけられれば、そのほうがいいけど、色々な曲を勉強して、ある程度能率を上げる為には、聴かないとダメでしょうね。

—その折り合いについて、アドバイスはありますか？

永井 学生に言っているのは、違う種類を7、8枚は聴きなさい。それで、気に入ったものがあつたら、朦朧とするまで聴きなさいとすると、その奥にある作曲家の何かを感じることが出来るかも…と。「表面づらの演奏を真似するのだけはやめようね」つて。

—楽譜には書き込みされるほうですか？

永井 書き込みしないと気持が散らばつてダメな時は書くし、書か



永井先生のCD～当館所蔵CDから。  
XD43647-43648  
ヘンデルの《メサイア》ですが、非常に  
珍しい[プラウト版]による演奏です。

なくても済む時は書きません。でも、書いておけばよかつたと思うことはあります。何か妙なプライドみたいなものもあって、ちゃんと完璧に覚えなきゃ指揮しちゃういけないとか、ピアノを弾いちゃういけないとか。書いてあると、まだ何かそれに頼っているみたいで嫌だから、書かずに徹底的に覚える。ただ、その曲をそれから二十年間扱わなくて、またやる時、もし書いてあれば随分楽だったのにと。ピアノで言えば、指番号とか書いておけば随分楽だったなと。学生には、「これ、書いておいたほうがいいよ」という場合もあれば、「書かないで！そのぐらい常識でしょ」という時もあります。書き方にしても、「あなたはこうやって書いたほうがいいよ」と、例えばデクレシェンドでも即物的に書くのではなく、雰囲気を表すように曲線で書いたら、とアドバイスしたりもします。

## 忘れられない演奏の数々

— 感動した指揮者はいらっしやいますか？

永井 N響の《第九》のマタチツチ！指揮法がどうこうというのではなく、そういうのは超越して、その場が変わってしまふのです。もう一生忘れられないです。他にも、初めてN響で合唱団員として歌った《ファウストの劫罰》をやったジャン・フルネとか、もちろんスウィトナーさんとか、たくさんあるんですけど、みんなそれぞれに素晴らしい！

— 楽譜についてはどうお考えでしょう？

永井 あまりこだわらないです。主に新全集を使いますが、それ以外も。何かじゃなきゃダメだというのではなく、知り得る情報を全部知って、自分の中で音を組み立てていくという姿勢です。

## 指揮と指揮法

— 指揮をやっていて良かった点は何がありますか？

永井 ピアノに役立つことです。例えばベートーヴェンは、ピアノ・ソナタも書くけれども管弦楽曲も書いて、歌の曲も書く。つまり、

その作曲家の中で、いろんな楽器の経験、音のイメージが重なっているわけです。ピアノ・ソナタの中にも管弦楽的要素があつて、構築性とか、音の組み合わせとかは、よく指摘されています。指揮をする時、弓使いのちよつとした慣習とかバランス、そういうオーケストラから得たものがそのまま「あ、ベートーヴェンってこういう感覚でこの付点音符書いてたんだらうな」とか見えてきます。

— 指揮法はいつ頃から？

永井 指揮法を勉強し出したのは38歳の時なのです。それまでは、学内演奏会や地方のオペラ、東京交響楽団も振りましたが、音楽だけで、音楽を頼りに指揮をやっていたのです。ただ、指揮法が身につけていないとやりたいことをやるのに非常に効率が悪い。ある程度指揮活動をしてから、高階正光先生の門を叩きました。当時、先生は、合わせるためだけの指揮法から、共感を持ってアンサンブルでできるような指揮法を構想中で、斉藤指揮法を発展させた本を出そうとされている時期でした。先生がおっしゃった指揮法の極意の一つは、「例えばコーラルの言葉一つ一つでも振り分ける。見て分かる！」、そういうことを考え始めていた時期にちょうどついたのです。

— 指揮法を身につける利点とかありますでしょうか？

永井 指揮法をやっていると、「1」「2」とあるんじゃないかと、「1ト2」というのが、「イット2」となるか、「イチトオ2」となるか、その「ト」までの持つていき方と、「ト」から「2」という感覚を否定なしに身につけねばなりません。それは、特にピアノストにとつては有益です。ピアノ一つ一つの音を弾いてから次の音を弾くまですることないわけじゃないですか。どうもつていたらいいか？フレーズをつなげようと、肩を動かす人もいますが、出ている音は同じです。そういうことよりも、音のでき方の感覚や、どういう音楽をしているかという点が重要で、音楽創りを進めていく上で、指揮法はとても役に立つものだなというのには、始めてみて気がつきました。指揮は音楽のイメージを形にしやすいのですが、形にする為には、自分の中で裏付けが必要で、フィリングだけではだめなのです。だから、そこが素晴らしいのが高階先生の指揮法で、重要点をきちつと理論化している。ただ指揮法は指揮法に過ぎないから、音楽的な中身がないと幾ら格好をやっても、そんなものはプレイヤーにすぐに見抜かれてしまいます。

## 指揮者眞利に尽きる時

—指揮者眞利に尽きる—というの  
はどんな時でしょうか？

永井 こつちがあまり何もしないでも、皆が活き活きと、ワーツと弾き出して、歌いだした時、それをちよつと整理しながら音楽している時です。例えばそういう状態になりやすいのは《メサイア》のアーメンコーラスとか、幾つかありますけど。あと、とりあえず終わって、アンコールの曲が始まる時が一番幸せかな（大笑い）。

—選曲される時って、どんな感じなのですか？

永井 流行に乗る音楽会、好きじゃないんです。イベント的な音楽会というの好きじゃない。やはり内的な要望があって、叶えばそれが一番。内的な要望と相手の団体の都合で決まっていくなわけです。

—宗教音楽で頑張ろうという卒業生が増えてきて、その中心に先生がいっぱいいますか？

永井 いや、僕は大了したことないけど…。こういう時期にこういうものをやりたいという気持ちとか、やらせてほしい気持ちとか、色々あって、縁あって、ポンとそこに乗っていくだけで、それ以上ないのです。あと、宗教音楽で頑張ろう

うという人が増えてきた背景にはそういう録音が豊かになってきた影響も大きいのではないかと思います。

## レッスンは眞剣に！

—学生に対するアドバイスがありましたら？

永井 やりたい音楽をやって…。でも一回一回のレッスンでは、今の瞬間でなければできないことを眞剣にやる！

—厳しいですか？

永井 怒鳴ったりはしませんが、嫌みは言うかもしれない（大笑い）。僕の先生も、怒鳴ったりするような先生ではなかった。何かチクリと。そのチクリが異様に怖かったですけど。くにたちにはいつも、勉強にもう一つ迫力が無い学生がいて、人が善くて、教わるのを待っていて、みたいな…。だけど、やる人はやる。

—みなさん、頑張っているらしいです。

永井 それと、「あの学校嫌いだ」ってならないのが素晴らしい。音楽をやっている割には、随分のんびりしている。何となくここに来るとほのぼのとして。楽屋にくにたち関係の人がいると和みます。不思議ですね。オケなんかでもみんな言いますね。

—この音楽の喜びは、誰

争過多でなかったから？

永井 競争で学べることもいっぱいあると思います。でも、競争のないところで学べることもいっぱいあるのです。それと、向き不向きがある。競争するところに行きたほうがいい人もいるけど、そうじゃない人が競争するところへ行くと、ちよつと悲劇で。ただ、学生時代、学校はのんびりしていたけど、自分たちがのんびりしていたわけではない。あつちへ行きこつ

## 永井 宏 (ながい ひろし) プロフィール

—「ぱるらんど」のための自筆—

1953年 横浜市に生まれる。

両親にピアノの手ほどきを受けた後、小学校3年生より石渡日出夫（作曲家）氏に師事。高校入学と同時に属澄江（ピアニスト）氏に師事。

1975年 国立音楽大学卒業、1977年 同大学院修了（ピアノ専攻）。

少年期に芸高（東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校）受験に失敗、ついで毎日学生コンクール（全日本学生音楽コンクール）で失敗。

以来、競争の場から逃げ続けた上に、他人と関わるのが苦手、また生来、万事に奥手なことも手伝って、なんともバツとしない地味な音楽生活を送り、現在に至る。

「斉藤指揮法」を発展させた高階正光氏に師事したのは1991年、38歳。

母校に正規就職したのは2007年、54歳。

やっぱりなにかと遅い…。自分への挑戦を停止していたわけではないことは、（控え目に）つけ加えておいても良いかと思う。

「ぱるらんど」読者のくにたちの学生の皆さんのために…。

ちへ行き、あれやってこれやって。くにたちで、ほんとにのんびりしちゃおうと…。

—大変なことになってしまおう。

永井 だから、教育としては一番難しい。

—ご抱負をお願いします。

永井 とにかく二百年前とか三百年前に作曲した人がいるわけですから、その人の魂を伝えられればいいなと思うのですけど。

## 永井先生おすすめの本

▼「私の個人主義」夏目漱石 講談社学術文庫 K693（請求記号 J81-38）

▼「日本辺境論」内田樹 新潮新書 K777（TAC東京経済大学・津田塾大学所蔵）

▼「春宵十話」岡潔 光文社文庫 K500（請求記号 J28918）

▼「人間の覚悟」五木寛之 新潮新書 K714（TAC東京経済大学所蔵）

▼「どうせ死んでしまふのになせいま死んではいけぬのか」中島義道 角川文庫 K460（請求記号 J118123）

まじめに勉強すればする程、日本人がなぜ西洋音楽？という問題に直面するはずだ。

また音楽と深く関われば関わる程、「どう生きるか」を考えざるを得ません。

音楽人生のスタートにあたり、是非読んでみたいと思う参考書を挙げてみました。

書店で簡単に手に入れやすく、しかも廉価なものばかり選びました。

●いちかわとしつぐ “白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒はしづかに飲むべかりけり”先生の静かに深いお話を伺いながら牧水のうたを思い浮かべていました。美酒も良いお話も音楽もゆっくりと味わうべきかと…。

## 朗読CD『ゲーテを演じる名優たち』 - Große Goethe Interpreten

末松淑美

音楽である」と書かれている。なんと美しい言葉だろうと思つて、この一枚だけ捨てられなかった。いまでも建物の中で耳を澄ませてみたくなることもある。

言葉は、文字と意味と音が一つに合わさつたものである。建築の例は、まったく新しい意味が生み出された美しさだと思つて、さて、舞台上で聴くドイツ語の美しさとは、いったい何だろう。音か、意味か、それとも…

紹介するCDは、著名な俳優たちの朗読や演劇シーンを集めたシリーズの一枚である。寒々とした竖琴弾きの声、追いつめられてゆく若きウエルテル、恋の予感におびえるグレートヒェン、ぜひ一度聴いてみてほしい。映像とは別の魅力がある。そして、美しい音楽に囲まれている音大生の皆さんの感想を、ぜひ聞かせてほしい。



請求番号●XD63320  
„Johann Wolfgang von Goethe. Große Goethe Interpreten“, Eloquence. Hörbuch. ISBN:3-8291-1426-5

●すえまつよしみ 本学准教授(ドイツ語)

## シェイクスピア『夏の夜の夢』

友利修

の読書で1か月余しかかからない。シェイクスピアは数々の作曲家、特に19世紀ロマン派の人々に大きな影響を与えた。20世紀でもたとえばメシアンは、8歳のとき全戯曲の全役を一人遊びで演じるほどに熱中したことが自分の精神性を形成したと語っている。シェイクスピアを読むことで彼らともつと友達になれる。

1冊と言われれば、ここでは『夏の夜の夢』を挙げたい。妖精の戯れ、それに翻弄される恋人たちの情熱、庶民の笑いが夏至の前夜、森の中であやしくおかしくもつれほどける。五感を総動員させる作品だ。あまりに耳慣れたメンデルスゾーンの『結婚行進曲』がどれほど幻想と喜びに満ちたものか、新鮮な再発見もできる。

いくつもある邦訳のうち、ここでは特にこの戯曲にびつたりの小田島雄志訳を挙げておきたい。

自分が若いとき熱中し、何歳になつても楽しい、若い人にも薦められる本。何か挙げろと言われれば、私のばあい、ためらいなく「シェイクスピアぜんぶ」と答えられる。

シェイクスピアは私が全作品を読みとおした数少ない作家の1人で、大学生のとき、ある先生からそれを薦められたことによる。彼の作品は、それまでもある程度読んでいたが、思い立って最初から全部読むことで私に一つの大きな世界を開いた。そして人生の色々な局面で何度も心強い友となった。この一生ものの助言を私も感謝とともに次の世代に伝えたいと思つている。一日1時間ほど



請求記号●J23-959  
シェイクスピア著、小田島雄志訳『シェイクスピア全集3』白水社

●ともりおさむ 本学准教授(音楽学)





# 身近な校歌

撰 正弘

先日、近所の小学校の校歌を耳にする機会がありました。ロバの音楽座のコンサートで演奏されたのを聴いたので。平仮名ばかりの歌詞の中に、自分の道を歩いていくことを大切にしてほしいというメッセージが込められている気がします。すっかり気に入ってしまったので、歌詞を紹介させていただきます。

立川市立幸小学校校歌

作詞 谷川俊太郎  
作曲 林光

わたしがたねをまかなければ  
はなは ひらかなない  
ぼくがあしを ふみだすとき  
みちは かぎりない  
じぶんで かんがえ  
じぶんで はじめ  
幸小のわたしたち

わたしがあすを あきらめたら  
あさは もうこない  
ぼくがほしを みつめるとき  
そらは かぎりない  
あせらず こつこつ  
ねばって やりぬく  
幸小のわたしたち

ひとりか うたを うたいたすと  
こえは こだます  
ひとりひとり てをつないで  
ゆめは かぎりない  
みんな なかよく  
ちからを あわせる  
幸小のわたしたち

メロディーは、同校のホームページで聴くことができます。この歌との出会いがきっかけで、校歌という存在が気になるようになったので、今回は少しだけ校歌について書いてみたいと思います。

さて、一般的に、校歌に盛り込まれる要素とは何でしょうか。一つは、学校の教育方針です。学ぶ者の心構えや未来への希望、励ましの言葉などが詠まれます。もう一つは、地域の自然環境や文化的環境です。これには郷土愛を育む役割があるでしょう。校歌を歌うことにより、児童のなかに学校の教育方針や学校愛、郷土愛が定着するように作られています。

このような、校歌の役割のルーツを知るために、少し時代を遡ってみましょう。1893（明治26）年8月12日に、文部省が「祝日大祭日歌詞並楽譜」を告示したことが、校歌の起源のようです。小学校などで祝祭日に歌われる8曲が制定され、校歌発生のものになりました。

実は、明治期から、第二次世界大戦が終わるまで、日本では校歌を自由に作ることできませんでした。戦前・戦中の学校は、校歌を作成した場合、楽譜、歌詞、歌詞の説明などを添え、文部省に認可申請を行いました。楽譜、歌詞などに修正がある場合、文部省は該当箇所を学校側へ通知しました。この手順を経なければ校歌と認められなかったのです。修正は、楽曲に関するものよりも、歌詞に関するものの方が多かったようです。また、歌詞に関する修正には、表記上のみならず、

歌詞内容に深く係わるものも多く見られました。具体的には、忠君愛国の思想を強く盛り込むなどの傾向がありました。

戦後、教育改革によって校歌の認可制度がなくなり、学校が校歌を自由に制定できるようになりました。教育方針や郷土愛が詠み込まれた、いかにも「校歌」というものから、ポップな曲まで、様々です。

幸小のHPを見ると、PTA広報紙『うつぎ』の、校歌に関する記事を読むことができます。当時、谷川さんに作詞を依頼した先生によると、「富士山や桜といったいわゆる今までの『校歌』のイメージではなく、新しい学校にふさわしい歌をお願いしたとのこと。十年程前までは、学外者が校歌を知る機会

は殆どありませんでした。しかし、現在では、インターネット上で多くの学校の校歌に触れることができるようになりました。身近な学校のホームページを開いてみたら、隠れた名曲が見つかるかもしれませんね。

## 参考資料

- ◆ 浅見雅子・北村真「校歌―心の原風景」学文社・1996（請求記号●GG796）
- ◆ 校歌をたどり調査隊「発掘！校歌なるほど雑学事典 ヤマハミュージックメディア、2004（請求記号●J103483）
- ◆ 嶋田由美「小学校校歌制定に関する研究―明治後期における東京府内小学校校歌制定過程の分析を通して―」『音楽教育』第19号、p16-27、1986（請求記号●P787/16）
- ◆ 谷川俊太郎「ひとりひとりすくく立って―谷川俊太郎・校歌詞集―澤橋、2008（請求記号●J114495）
- ◆ 「しるか しらぬか しろうか 校歌『うつき』第23号、1993（幸小HPから閲覧できます）

- 『ぎりぎり合格への論文マニュアル』山内志朗(平凡社, 2001)(平凡社新書; 103) **J93-833**
- 『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方』吉田健正(ナカニシヤ出版, 1997) **J88-896**
- 『論文作法: 調査・研究・執筆の技術と手順』エコ(而立書房, 1991) **J82-523ほか**
- \*以下は大学生向けの文章の書き方の本です。
- 『大学生のための文章表現入門: 正しく構成し、明確に伝える手順と技術』速水博司(蒼丘書林, 2002) **J98-086**
- 『大学生のための国語表現』改訂版. 国語表現法研究会編(学術図書出版社, 1996) **J93-311**

## レポートや論文を書くための本

大学生に限らない、少し広い範囲も対象とした本です。

- 『論文&レポートの書き方: 90分でコツがわかる!』泉忠司(青春出版社, 2009) **J116-091**
- 『レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方』藤田節子(日外アソシエーツ, 2009) **J115-804**
- 『論文の書き方: わかりやすい文章のために』小笠原喜康(ダイヤモンド社, 2007) **J111-654**
- 『論文・レポートの文章作成技法: 論理の文章術』古郡廷治(日本エディタースクール出版部, 2006) **J107-939**
- 『学術論文の技法』新訂版. 齊藤孝, 西岡達裕(日本エディタースクール出版部, 2005) **J105-275**
- 『だれも教えなかったレポート・論文書き分け術』大竹秀一(エスシーシー, 2005)(SCC books) **J104-687**
- 『レポート作成法: インターネット時代の情報の探し方』井出翁, 藤田節子(日外アソシエーツ, 2003) **J100-761**
- 『小論文トレーニング』貝田桃子(岩波書店, 2003)(岩波ジュニア新書) **J110-542**
- 『学位論文: 成功への戦略とテクニック』Thomas(総合医学社, 2002) **J104-688**
- 『やさしい文章術: レポート・論文の書き方』樋口裕一(中央公論新社, 2002)(中公新書ラクレ; 73) **J104-174**
- 『創造的論文の書き方』伊丹敬之(有斐閣, 2001) **J97-103**
- 『レポートの組み立て方』木下是雄(筑摩書房, 1990)(ちくまライブラリー; 36) **J71-732ほか**
- 『論文執筆ルールブック』中村健一(日本エディタースクール出版部, 1988) **J65-960**
- 『論文のレトリック: わかりやすいまとめ方』沢田昭夫(講談社, 1983)(講談社学術文庫) **J95-458**

## 日本語を書くための本

より良い文章を書くための本です。

- 『文章を書く技術』佐竹秀雄(ベレ出版, 2006)(日本語を知る・磨く) **J107-548**
- 『なぜ伝わらない、その日本語』野田尚史(岩波書店, 2005)(もっと知りたい!日本語) **J106-896**
- 『パソコンで文章がうまくなる!』鐸木能光(青春出版社, 2005)(青春新書. インテリジェンス) **J107-436**
- 『正しい文書がすぐ書ける本: これは便利!』小川悟(日本経済新聞社, 2002) **J101-518**
- 『井上ひさしと141人の仲間たちの作文教室』井上ひさしほか(新潮社, 2002)(新潮文庫) **J107-434**
- 『「超」文章法: 伝えたいことをどう書くか』野口悠紀雄(中央公論新社, 2002)(中公新書) **J97-155**
- 『表現のエチュード』愛知峰子, 高木徹(学術図書出版社, 2001) **J93-304**
- 『日本語文章表現法』飛田良文編(白帝社, 1997) **J91-393**
- 『見てわかる〈図解〉文章の書き方』河合正義(実務教育出版, 1996)(3分間で1ヒント) **J83-893**
- 『文章術』多田道太郎(朝日新聞社, 1996)(朝日文庫) **J107-487**
- 『新・文章の方法: Essay to novel』葉山修平(笠間書院, 1996) **J91-394**
- 『実戦・日本語の作文技術』本多勝一(朝日新聞社, 1994)(朝日文庫) **J107-435**
- 『センスある日本語表現のために: 語感とは何か』中村明(中央公論社, 1994)(中公新書) **J94-595**



- ・この他に参考図書室の816の棚には、新聞社の用語の手引き、表現の辞典などもあります。
- ・OPACで探すときは、以下の検索項目と言葉を使いましょう。

当館図書分類: 816

作文. 文体: 一般的な、文章を書くための手引きです。手紙の書き方なども含まれます。

当館図書分類: X-170

音楽図書館学. 音楽文献探索法: 音楽についてのレポート作成や資料の探し方などの本が見つかります。

件名: 学術的文章技法

レポートや論文など学術的な文章を書くための本です。



# レポート、卒論、文章の書き方の本

森岡 倫子

レポートを書く、卒論を書く。いいレポートが書けたときは嬉しいけれど、1行も書けない、どうしてよいか分からないときはつらいですね。そんなときにまず1冊、当館所蔵資料から、レポートの書き方、卒論の書き方など、文章を書くことに関する本をご紹介します。それぞれの項目ごとに新しい本から並べています。太字は請求記号です。

## 音楽について書きための本

まずはこちらを読んでみましょう。文章を書くだけでなく、どのように研究を進めるかの考え方もわかります。少し古い本もありますが、音楽に関する本は数が多いので取り上げました。

『音楽の文章セミナー：プログラム・ノートから論文まで』久保田慶一（音楽之友社, 2006）**J109-186**

『論文作成のための資料案内：音楽教育を中心に』改訂第3版. 国立音楽大学附属図書館閲覧参考部ガイドダンス担当編（国立音楽大学附属図書館, 2005）**J105-892ほか**

『音楽療法研究と論文のまとめ方：資格取得をめざす人のために』貫行子, 星野悦子（音楽之友社, 2002）**J100-894ほか**

『音楽の文章術：レポートの作成から表現の技法まで』ウィンジェル（春秋社, 1994）**C58-865ほか**

『音楽教育研究入門』フェルプス（音楽之友社, 1984）**C38-998ほか**

『論文・レポート作成の手びき』増補改訂版. 国立音楽大学楽理学科研究室編（国立音楽大学, 1983）**C36-970ほか**

『音楽教育研究のまとめ方』中嶋恒雄, 斎藤博（建帛社, 1980）**C31-641ほか**

\*以下の3冊は資料の探し方や文献の紹介です。

『音楽資料の探しかた：質問事例集』東京文化会館音楽資料室編（東京文化会館音楽資料室, 1999）**C63-609**

『音楽研究の学際化と音楽文献：世紀末と両大戦間の事例を中心に』渡辺裕（国立音楽大学附属図書館, 1989）(Introduction to music research series ; 3) **C47-951ほか**

『音楽史と音楽文献』高野紀子（国立音楽大学附属図書館, 1987）(Introduction to music research series ; 1) **C44-254ほか**

## 大学生のための本

大学生向けとされている本です。テーマの決め方、調査の方法、まとめ方などもあります。レイアウトも文字大

けの読み物の本、図が多用された本などさまざまです。

『よくわかる卒論の書き方』白井利明, 高橋一郎（ミネルヴァ書房, 2008）(やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ) **J113-560**

『これから学会発表する若者のために：ポスターと口頭のプレゼン技術』酒井聡樹（共立出版, 2008）**J114-711**

『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』松本茂, 河野哲也（玉川大学出版部, 2007）**J110-910**

『これからレポート・卒論を書く若者のために』酒井聡樹（共立出版, 2007）**J111-184**

『これから論文を書く若者のために』大改訂増補版. 酒井聡樹（共立出版, 2006）**J108-561**

『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』佐藤望編（慶應義塾大学出版会, 2006）**J109-891**

『大学生のための論理的に書き、プレゼンする技術』菊田千春, 北林利治（東洋経済新報社, 2006）**J107-617**

『文章の新教室』佐久間保明（武蔵野美術大学出版局, 2006）**J107-940**

『レポート・卒論のテーマの決め方』（具体的事例を含んだ「テーマの決め方」の基本ガイド）三井宏隆（慶應義塾大学出版会, 2004）**J102-330**

『卒業論文の手引』（全国のすべての大学生の役に立つ「卒業論文の手引」）新版. 慶應義塾大学通信教育部編（慶應義塾大学出版会, 2003）**J99-052**

『読みやすく考えて調べて書く：小論文から卒論まで』第2版. 奥田純己〔ほか〕（学術図書出版社, 2003）**J100-518**

『卒論・ゼミ論の書き方』第2版. 早稲田大学出版部編（早稲田大学出版部, 2002）**J99-053**

『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』新堀聡（同文館出版, 2002）**J96-143**

『学生・院生のための研究ハンドブック』田代菊雄編（大学教育出版, 2001）**J93-316**

# RIPM (リップム)

～ 19世紀の音楽新聞・雑誌記事検索に朗報!～

市川 啓子

## RILM (リルム)の姉妹編

前回『ばららんど』263号の「図書館員のノートから」で紹介したRILM (リルム)「国際音楽文献要旨目録」の姉妹編に相当する国際的規模の情報ツールをご紹介します。今回のRIPM (リップム)は、音楽主題の新聞・雑誌記事の内容総覧と索引で、正式名称は Répertoire International de la Presse Musicale です。RILMとの関係は?と云うと、共通点は、国際音楽学会(IMS)と国際音楽資料情報協会(IAML)が、共同で取り組んでいる国際的な文献目録事業であること。相違点は、RILMが著作、雑誌記事のみならず、多種多様な学術的価値のある文献が含まれているが厳選されているのに対して、RIPMは、新聞・雑誌記事に限って網羅的に採録していることと、採録の期間が、RILMは1967年から現在までと、最近の研究文献の探索ツールをめざしているのに対し、RIPMは、1800年から1950年までと、19世紀及び20世紀前半の記事検索に焦点を当てていることでしょう。

## 雑誌目次集 (内容総覧)という発想

19世紀の音楽について、初演はいつだったのか、その反響はどうだったのか等々、社会との関連を研究したいと思うとき、その時代に刊行された新聞・雑誌記事が重要な情報源となります。例えば、Allgemeine musikalische Zeitung (独)、R・シューマンが編集・発行したNeue Zeitschrift für Musik (独)、Revue musicale (仏)、The Harmonicon (英)、Dwight's Journal of Music (米)等です。昔の音楽研究者たちは、個々にそれらの新聞・雑誌を端から端まで頁を繰って調べていました。苦勞が偲ばれますが、その苦勞と情熱を共有した音楽学者と音楽図書館員たちの中で、1980年に各国の主要音楽新聞・雑誌の内容総覧とその索引を作成しようと声を上げたのは、現在もRIPM主幹であるH.R.コーエン氏です。(注) 世界15カ国の

主要音楽新聞・雑誌約130誌を対象に、約300冊の冊子目録一刊行年順の内容総覧の本体+キーワード・著者索引を1988年から2012年にかけて刊行するという遠大な計画でした。その後、情報技術(IT)の進展によりオンライン・データベース化が進み、ついに2009年、夢のFull-Text (全文検索)化が実現しました!

## 冊子目録とオンライン・データベース

1988年から刊行され始めた冊子目録は、すでに170冊を超え、本体だけで当館参考図書室のX-040【音楽文献目録】の棚を5段分占領しています。茶色の表紙で、国別に誌名ごとに並んでいます。何と云っても、冊子の方が一覧性に優れていますので、是非一度、手にとってご覧ください。

データベースの方は、人名やキーワードから探すのに便利です。記事掲載誌名、巻号、頁がわかるだけでなく、実際の記事そのもの(全文)まで見られるところが嬉しいのですが、場合によっては、ヒゲ文字(独の旧字)が出てきてビックリします。また、まだオンライン化されていない雑誌もありますので、注意が必要です。

RIPM Online Archiveは、当館ではRISMやRILMと同様に、EBSCOhostで検索できます。参考図書室の情報端末のメニューから「海外データベース」→「EBSCOhost」→「こちらからログイン」の順序で開けてみてください。検索後、**ROA** ボタンをクリックすると全文が見られます。RILMとの同時検索も可能です。どうぞご活用ください。

注: H. Robert Cohen氏のインタビュー記事” A Quarter-century of success: an interview with H. Robert Cohen, founder and director of the Répertoire International de la Presse Musicale(RIPM)” IN 『Fontes artis musicae』 54/4, p385-390 ●P0074/54(4)

● いちかわ けいこ 当館でも、「音楽雑誌記事索引」作成に燃えた時期がありました。1館の努力には限界があります。情熱の継続と国際協力の素晴らしさに脱帽です。

# 図書館と著作権と資料の複写 (その2)

(その1)からの続きとして、図書館内に設置されているセルフ式コピー機を運用するための「実務要項」についてご紹介します。

「大学図書館における文献複写に関する実務要項」(平成15年1月30日 国公立大学図書館協力委員会)は、2002年12月3日、協力委員会と日本複写権センターとで合意を得た内容です。この合意内容を以下に一部転載します。

-----  
(趣旨)

(1) 大学図書館は、著作権法によって著作権のある所蔵図書資料を一定の範囲で複製することが認められている。しかし、その範囲ないし複製方法については必ずしも一義的ではない。この実務要項は、大学図書館に許容されていると考えられるセルフ式自動コピー機による文献複写の範囲を明らかにし、大学図書館における複写が著作権法に従うものであることを保証するための措置について、各大学図書館にとっての指針となることを目的とする。

(2)、(3) [省略]

## 1. 著作権法尊重態度の周知

(周知)

(1) 図書館利用者(教職員・学生等)に著作権尊重の重要性及び当該図書館が所蔵資料について容認する複写の範囲について周知徹底させる。そのためにコピー機の周辺その他図書館内の目につく個所にその旨を掲示する、「利用の手引き」などに明確に記載する、又は入学ガイダンス・新任者ガイダンスその他研修・講習において伝達する等、適宜の措置をとる。

(周知内容)

(1) 周知内容には、容認する複写の範囲等について、次のような事項を入れる。

- ・ 著作物は全部ではなく一部分であること
- ・ 定期刊行物に掲載された各論文その他の記事はその全部であるが、発行後相当の期間を経たもの(次号が既刊となったもの、または発行後3か月を経たもの、等)に限ること(定期刊行物の最新号が配架されている場所にもこの旨掲示する。)
- ・ コピー部数は一人について一部のみであること
- ・ 利用者の調査研究用に限ること
- ・ 有償無償を問わず再複写したり頒布したりしないこと

## 2. セルフ式自動コピー機による複製

(コピー機の管理) [省略]

(複写申込) [省略]

-----  
(誓約書)

(1) 図書館は、利用者に対し、周知内容を含む次のような著作権を遵守する旨の誓約書を提出させる。

私は、著作権のある資料の複写について以下に記載する事項を遵守します。

1. 著作物は全部ではなく一部分であること
2. 定期刊行物に掲載された各論文その他の記事はその全部であるが、発行後相当の期間を経たもの(次号が既刊となったもの、または発行後3か月を経たもの、等)に限ること
3. コピー部数は一人について一部のみであること
4. 利用者の調査研究のためであること
5. 有償無償を問わず、再複写したり頒布したりしないこと

万一著作権法上の問題が発生した場合は、その一切の責任を私が負います。

以上の要項を遵守するため、利用者の皆さんに提出していただいている「図書館資料複写申込書・誓約書(館内複写用)」の裏面にこの内容を記載しています。当館でも、この実務要項に従って運用しています。いろいろ不便と感ずることもあると思われませんが、趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

では「私は、著作権のある資料の複写について以下に記載する事項を遵守します。」とある「著作権のある資料」とは?

次回以降は、この点に焦点を絞っていきたいと思います。(続)

(mj)

\*\*\*\*\*

◇「国公立大学図書館協力委員会大学図書館著作権検討委員会」刊行2009年3月27日

大学図書館における著作権問題Q&A (第7版)

付録3: 大学図書館における文献複写に関する実務要項

<http://www.soc.nii.ac.jp/anul/j/documents/coop/yoko.pdf>

# 図書館のら・ご・き

## ◇環境への取り組み（大学のう・ご・き）

2010年4月1日より、環境宣言及び省エネルギー目標を定めた「環境宣言」を大学ホームページ上に掲載しました。

(<http://www.kunitachi.ac.jp/introduction/feature/environment.html>)

その一環として、夏の冷房時を下記のように対応しています。

図書館内も以前より暑いと感じられる場合もあると思いますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

---以下、大学HPからの転載---

### ※ クールビズの実施について

本法人では地球温暖化防止及び省エネルギーに資するため、省エネ活動「くにおん・エコ」を展開しております。その一環として、6月1日～9月30日まで、以下、施策を実施いたします。

#### 1. 冷房について

原則として、空調（冷房）温度は28℃とします。

#### 2. クールビズの実施について

クールビズ実施のため、教職員は軽装にて業務をさせていただきます。

皆様のご理解、ご協力のほどよろしくをお願いいたします。

## ◇冷暖房に関する（図書館のう・ご・き）

皆さん、気づかれていないかもしれませんが、図書館（4号館）の冷暖房装置は、3年計画で入れ替え工事が行われています。第1期（2008年度）は図書館閲覧スペース部分のファンコイル工事でした。天井型が新設され、床置き型も新しいものに入れ替わりました。第2期（2009年度）は4号館の図書館以外（3階より上）の工事、大学院の施設、楽器学資料館などが対象でした。今年（2010年度）は第3期として、夏休み中に図書館閲覧スペースの空調機の入替え工事を行います。2008年度に入れ替えたファンコイルは、いわば家庭のエアコンにあたるもので、室内の空気を循環させ、冷暖房するものでした。今年入れ替える空調機とは、外気を取り込み、部屋にたまった二酸化炭素を外に吐き出す設備です。外気を循環させるための取り込み口は「アネモ」と呼ばれ、天井に設置されています。天井にラップ方の丸いものが埋め込まれていますので、一度眺めてみてください。ここから新鮮な空気が取り込まれています。この工事が完了すると、今までよりもっと過ごしやすい環境になることと思われます。9月もまだ暑い日が続きますので、夏休み明けは、その快適さを実感していただけることでしょう。ただ、暑さ、寒さの感じ方は個人差がありますし、あくまでも、大学全体としての設定温度が基準となりますので、その点をご理解ください。また、冷暖房時期は、扉が開いたままにならないよう、ご協力お願いします。

主任司書 松浦淳子

画集では以前から眺めていたが、ぜひ原画を見たかった作品がある。東山魁夷画伯の「晩鐘」という絵である。

画面の中央には大聖堂が描かれ、夕暮れ時の輝きが空の半分を占める雲の縁から差しこんで、町並みを包みこんでいる。夕べの鐘が鳴り、静寂がその日一日の人々の思いをうけとめ、やすらぎを与えているようである。この絵をはじめて目にしたとき、思わず声を上げた。

今から三十一年前、「シユヴァアルツヴァアルトの真珠」と呼ばれるドイツのフライブルクで、八月初めから九月末まで過ごした。留学先の大学町に行く前の二カ月間ここでドイツ語の特訓を受けたのである。

ドイツ語の勉強は低空飛行であったが、ゴシックの大聖堂でのオルガンコンサートには毎週でかけ、満員の時には教会の石の床に腰をおろして演奏に聴き入った。ある週末に町の裏手の丘に登り、町の中心を眺めた。まだ陽は高かったが、のちに絵で見るまさにその風景であった。

絵自体の魅力ばかりでなく、市門をはじめ町は美しく、はじめてドイツで過ごした日々であったこともあり、懐かしく、ぜひ見たかったのである。昨年の夏、思いたつて、諏訪湖畔の北澤美術館に出かけた。日帰りの旅であったが、この絵の前にたまたずんで、見入ったのであった。描かれた夕暮れの光は、画集のものより鮮烈であった。

東山画伯は、一九三三年、東京美術学校を卒業して間もなく、知性の支えを求めてドイツに留学し、ヨーロッパの美術を学んだ。それ以来ヨーロッパと日本は、憧憬と郷愁の輪になって結ばれる。

それから三十六年を経て、画伯はドイツを再訪する。この絵はそのとき描かれた。厳しい精神風土の国を旅しながら、画伯の感じたのは、心のやすらいであったという。

## すぐに役立つOPAC検索 1 click!

### ◆音楽教科書・指導用の資料の探し方◆

音楽教科書は当館図書分類から探すと便利です。中学校教科書を探してみましょう。

①プルダウンで項目を選択し、当館音楽分類を選ぶ②入力ボックスにカーソルを合わせクリックすると分類が表示されるので、音楽文献をクリック③X-700 音楽教育をクリック④XY-725X 日本の音楽教科書をクリック⑤XY-725b 中学校をクリック。自動的にボックスに分類番号が入力されます。

当館図書分類	音楽文献分類表	一般書分類表
タイトル	当館図書分類 >> 音楽文献 >> X-700 音楽教育 >> XY-725X 日本の音楽教科書	
件名	XY-725 外国の音楽教科書[2284件]	
出版・発売者名	XY-725a 小学校[814件]	
	XY-725b 中学校[343件]	
著者+タイトル	XY-725c 高等学校[285件]	
	XY-725d 戦前の音楽教科書、唱歌[835件]	

\*小学校、高校、外国の教科書なども同じ要領で検索できます。

\*出版社を限定する場合は、「出版・発売者名」に教育芸術社、教育出版社等を入力してください。

\*出版年を新しい順に並び替えるには、スタイルを変更し、出版年の文字を左クリック→降順を選択。

◆ 指導用の資料を探す場合には、タイトルに「指導」「教師」「教授」等の言葉を入力し、キーワード検索。

◆ CDを探す場合は、注記に「音楽教科書」「学習指導要領」等の言葉を入力して検索。

詳しい説明や図版は、館内OPAC端末のそばに置いてあるファイルや、当館ホームページの<概要・使い方ガイド (webOPACの下にリンクあり)>のPDFファイルをご覧ください。

## マーガレット・リュートブック 「宮廷」奥の音楽

演奏学科音楽専修 2年

ステファニー・栄実・  
ウィットマー

皆さんは、「リュート」という弦楽器の名前や音色を耳にしたことがありますか。学内公開レッスンや演奏会などで、リュートを含むアンサンブルの演奏を聴いたことのある方もいるのでは。

私は12歳の時に、父が買ってくれたCDで、はじめてイギリス・エリザベス朝に流行ったリュートソングを聴きました。エリザベス・ケニーの奏でるリュートの音は、どこからともなく映る光のようで、歌い手の声と溶け合うハーモニーにうっとりとし、聴き惚れたのを覚えています。リュートの柔らかい響きで奏でられる和音の奥深い表情に、新鮮な感動をおぼえました。

リュートは、ルネサンス〜バロック期にかけて、歌の伴奏や通奏低音に欠かせない楽器でした。リュートと歌のアンサンブルで素敵な作品はいっぱいありますが……リュートの音そのものを楽しんでいただきたいと思い、ここではあえて、リュートソロのCDをお勧めします。

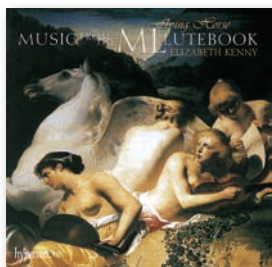
フランスからイギリスの宮廷に伝わったリュートは、16世紀に「エリザベス朝リュートの黄金時代」を迎えました。当CDの曲集は、それに続くジェームズ1世時代、17世紀初頭

のものです。宮廷で仮面劇や舞台上演が盛んに行われている一方で、マーガレット・ボード夫人をはじめとする奥方達による、内輪の演奏会もまた盛んでした。彼女達は幼いころから、ヘンリー王子お抱えの楽師達に手ほどきを受け、リュート、ヴァージナルや歌において優れた技巧を持っていたようです。

MLリュートブックは、フランスから招かれていた楽師を含む15人程のリュートイスト（作曲者）が、お互いのメロディーを用いたり、論じ合ったりしながら作った曲集であり、マーガレット夫人というパトロンのもとで完成させられたのでした。

どの曲のメロディーも魅力的で、なんといつでもケニー氏のスパイスの効いた装飾が楽しく、聴くたびに新たな面白さに気付かされ、ますます好きになります。

リュートの音色は、静かな夜にリラクセスして聴くのにピッタリな音楽と言えるでしょう。皆さんも、ぜひ色彩豊かなリュートの音色を味わってみてはいかがでしょうか。



請求記号●XD63346  
Flying horse: music  
from the ML lutebook  
(Hyperion:CDA67776)

●Stephanie えいみ Witmer 図書館には他にも、P. オテット、J. リンドベリや今村泰典のような個性的な奏者による、様々なリュート作品の録音が置いてあります。興味の沸いたものからどうぞ！

## 楽譜「解き放たれた音楽」の追求 ―谷川×鈴木作品を通して―

演奏学科鍵盤楽器専修(ピアノ) 2年

小川太一

詩人の谷川俊太郎氏と作曲家の鈴木輝昭氏という「黄金コンビ」は合唱界では大変人気である今年度、第77回NHK全国学校音楽コンクール高等学校の部課題曲である《いのち》も谷川×鈴木コンビで制作されており、丁度良い機会があるので両氏による作品を採り上げることにした。

私が初めて鈴木氏の作品と出逢ったのは中学生の時であり、今回採り上げる、混声合唱とピアノのための《サーカス》であった。組曲は《奏楽》《道二題》《サーカスI》《道化I》《サーカスII》《魔術師―空中ブランコ》の4曲から成る《奏楽》《道二題》では、時間的推移を求心的に辿つてゆく持続を指向し、《サーカスI》《サーカスII》では、空間に放たれる響き、絵画的な修辭法を構造上のコンセプトとしたと鈴木氏は語っている。一見このコンセプトは非常に複雑であるかのように思えるが、谷川氏の詩を読めば読む程に、鈴木氏の曲を聴けば聴く程に腑に落ちてくる。この組曲の最大の魅力であろう、詩と音楽という2つの要素が融合し合い、また或る時には其々の方向性を持つて対立し合うことが感じ取れるのである。

この作品は出雲市立第三中学校合唱部による委嘱作品であり、鈴木氏が中学校混声合唱のために書いた初めての組曲作品である。中学生が



歌うということは氏にとつて制約的な意味ではなく、寧ろ自由に解き放たれた音楽の在り方を追求することなのだという。それは楽譜を見ると明らかである。一切妥協のない、寧ろ挑戦的とも言える鈴木輝昭の音楽世界が拡がっているのである。また、鈴木氏の作品の特徴と言えは技巧的なピアノであるが、この作品も例外ではない。私は氏の合唱作品はピアノを伴奏と捉えるのではなく、ひとつの確立されたパートとして捉えるべきであると考え。非常に技術の要るところではあるが、混声四部合唱とピアノという5つのパートが其々に確固たる意志と方向性を確立した時に、この作品の持つ想いや願いの世界が存分に表現されるであろう。

知識乏しい私の文章と限られた字数の中ではこの作品の持つ魅力を存分にお伝えすることが出来ないことをとても心苦しく思う。是非実際の演奏を聴いて頂きたい。因みに私はこれまでに《サーカス》を数多くの団体の演奏で聴いてきたが、委嘱初演の出雲市立第三中学校合唱部（指揮・吉川里美／ピアノ・吾郷明美）より素晴らしい演奏には未だ出逢ったことがないことも記しておきたい。



請求記号●F24-960  
『混声合唱とピアノのためのサーカス』全音

●おがわたいち 合唱とお酒をこよなく愛する合唱オタク。他にもお薦めしたい合唱作品が山ほどあるので、一緒に飲みながら語れる方募集中心(笑)。

CD

## 心に残る演奏

音楽教育学科音楽教育専修 2年 房野雄輝

音楽を勉強する者にとつて、憧れの演奏家、好きな作曲家、心に残る素晴らしい演奏…などといった存在は誰にでもあるのではないのでしょうか。その演奏や作曲家達といった、目標や目指しているものがあるからこそ、音楽を続けていくという方も多いのでは、と思います。

たしか私がまだ中学生の頃でした。偶然に回したテレビ番組で、ある日本人の女性ピアニストの方がピアノ協奏曲を演奏されていました。たしかベートーヴェンの4番の協奏曲だったと思います。まるで春風のようなピアノニッシモ、かと思いきや深い海のようなフォルテ。まだまだ音楽やピアノについて知らない私にとつて、ピアノの一つ一つの音が新鮮で輝いていて、言葉で言い表せないくらい感動したのを今でもはつきりと覚えています。このベートーヴェンこそが、私が初めて聴いた小菅優さんの演奏であり、この演奏がきっかけで、私は彼女のファンとなりました。

今回紹介させていただくこのCDですが、幼い頃からヨーロッパで演奏活動をしていらした小菅さんの日本のデビューアルバムです。また私自身が、リストという大作曲家を好きになるきっかけとなったものでもあるので、個人的にとつても思い出深い1枚です。

皆さんもご存知の通り、リストはバガニーニ

がヴァイオリンで実現した高度なテクニクを、ピアノ独自の新しい技巧によって表現しようと考えました。そしてこの試みの中、超絶技巧練習曲集も作曲されました。彼のピアノ作品はスケールが大きく、技術はもちろんのこと、表現においても高度なテクニクが求められます。

このCDに収められている演奏はまさに超絶技巧の名に相応しいものです。《前奏曲》の堂々としたダイナミックな始まり。《鬼火》のどこか不気味さを感じさせる軽やかな細かい動き。《狩り》の曲全体を支配する野生的な激しさ。《夕べの調べ》の遠くから鳴り響いてくる教会の鐘のような、優しく抒情的で深い旋律。どの曲も聴き応えがあり、小菅優さんの魅力に溢れた1枚です。

図書館にはこれ以外にも何枚か小菅さんのCDがあるので、ぜひ聴いてみてください。そして、小菅さんのピアノが皆さんにとつて心に残る演奏であったとしたら、とても嬉しいですね。



請求記号●XD50783  
超絶技巧練習曲集／フランツ・リスト  
Sony Classical SICC 113

●ふさのゆつき…芸術の秋、読書の秋、食欲の秋、秋には様々な顔がありませんが、個人的には毎年花粉の秋です。今年は少ないことを祈るばかりです。

# Information

## 夏休み前に借りた資料の返却は

7月以降に借りた資料は、もう返しましたか？忘れずに早めに返却しましょう。返却期限はOPACの利用状況から確認してください。

## CDの返却前に資料の確認を

「CDや解説書が入っていないなかった」「自分のCDを入れてしまった」「CDや解説書を請求記号の違うケースに入れてしまった」などのトラブルがしばしば見られます。これらの場合、返却処理ができませんので、CDの返却前には今一度資料が揃っているか確認をお願いいたします。また、CDを借りた際に資料の状態に不備な点がありましたら、AVカウンターまでお知らせください。

## 資料の水濡れに注意

返却された本や楽譜、CDケースが水で濡れているのが見られます。雨に濡れたり、ペットボトルの水滴が付くというの、主な理由のようです。資料を傷める原因になりますので、袋に入れる、ペットボトルと一緒に入れ物で持ち運ばないなど、資料が濡れない扱いをお願いいたします。

## TAC便の開始は

9月1日(水)から開始します。当館で所蔵していない資料でもTAC加盟館にある場合、TAC便を利用すれば当館資料と同じように利用できます。申込は受付カウンターで。

## がんばって教育実習

実習に行かれる方は、受付カウンターで「教育実習」と申し出てください。和図書・楽譜の貸出期間が2週間から4週間になります。CD、映像資料の教育実習貸出は行っていないです。

## 「大学図書館ランキング」今年は2位

朝日新聞社が発行する「大学ランキング」2011年度版における「大学図書館ランキング」総合(学生1人あたりの数値)で、当館が2位(貸出点数は1位)に選ばれました。

## 新聞の保存期間変更

「朝日」「読売」「東京」「毎日」「日本経済」「Japan Times」各紙の保存期間を6ヶ月から、4ヶ月に変更しました(該当月を含む)。

## ●●●●● テーマ展示 in ブラウジングルーム・AV資料室 ●●●●●

6月21日(月)～7月30日(金)

生誕150年 イグナツィ・ヤン・パデレフスキ  
企画●国立音楽大学附属図書館広報委員会

ショパンの楽譜「パデレフスキ版」で名を知られているイグナツィ・ヤン・パデレフスキ。彼はポーランドを代表するピアニストであり、作曲家であり、政治家でもありました。今回の展示では、今年生誕150年を迎えたパデレフスキの様々な姿をご紹介します。

8月30日(月)～10月1日(金)(予定)

Requiem～典礼と作品  
企画●三宅巖(国立音楽大学附属図書館)

日本では「鎮魂歌」「鎮魂曲」などと訳されるレクイエム。しかし、典礼上では、レクイエムには、鎮魂の意味はありません。今回の展示では、モーツァルトのレクイエムを例に、レクイエムについてご紹介します。

## ●●●●● ガイダンス ●●●●●

7月5日(月) 酒井美恵子先生ゼミガイダンス  
(4年・音楽教育)

## ●●●●● ゲスト ●●●●●

6月9日(水) 洗足学園大学図書館の方々4名  
6月26日(土) 東京私立中・高等学校教員約20名





